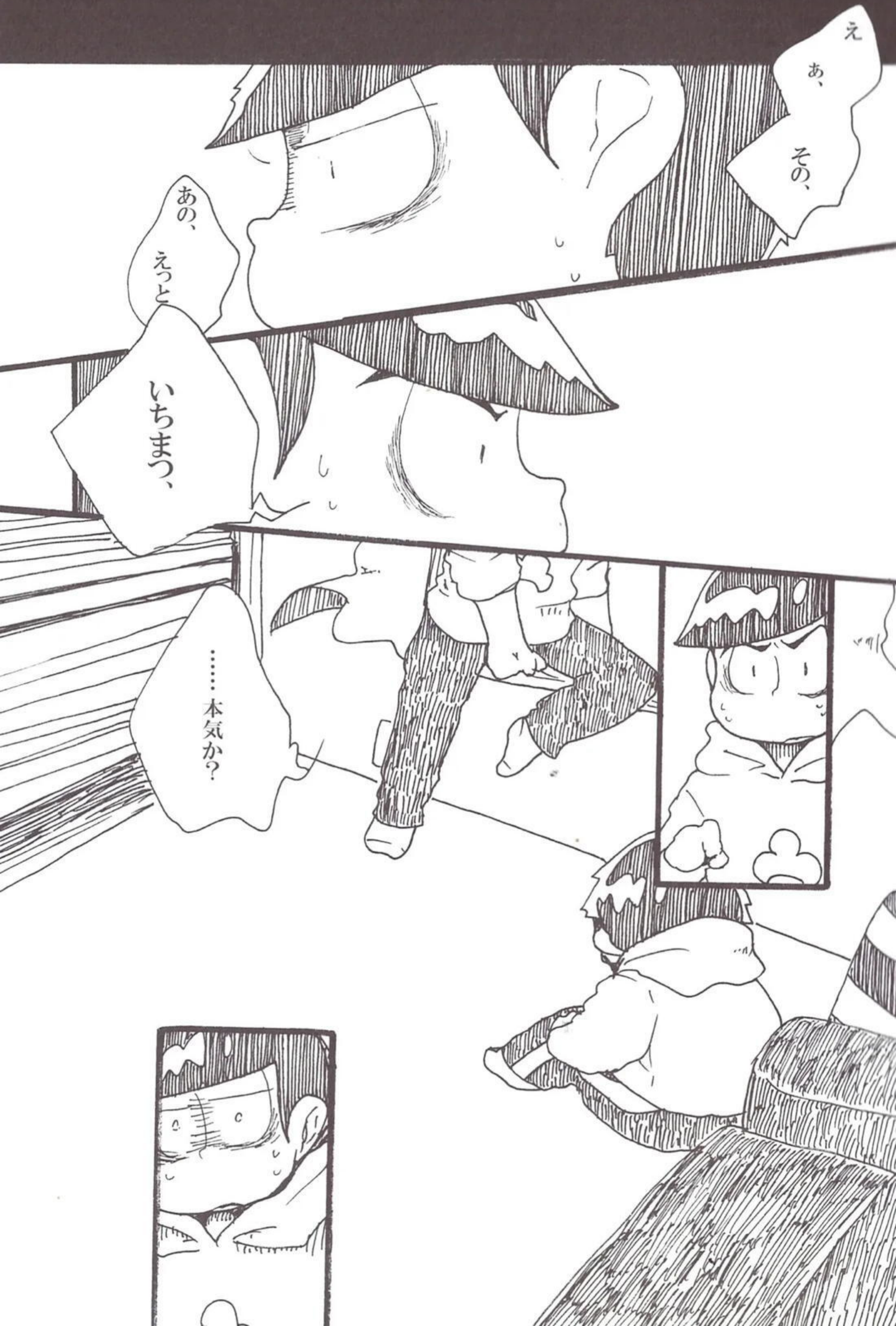


抱えれば沈む



抱えれば沈む



え

あ、

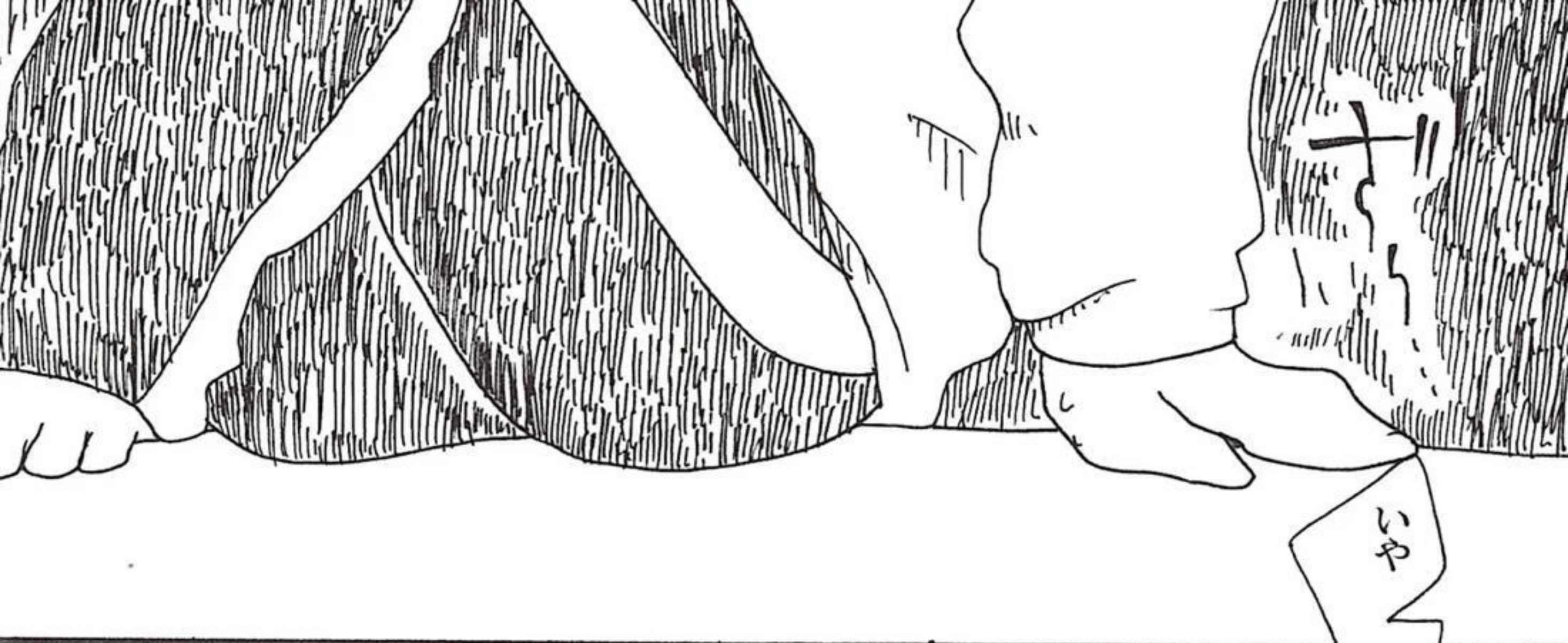
その、

あの、

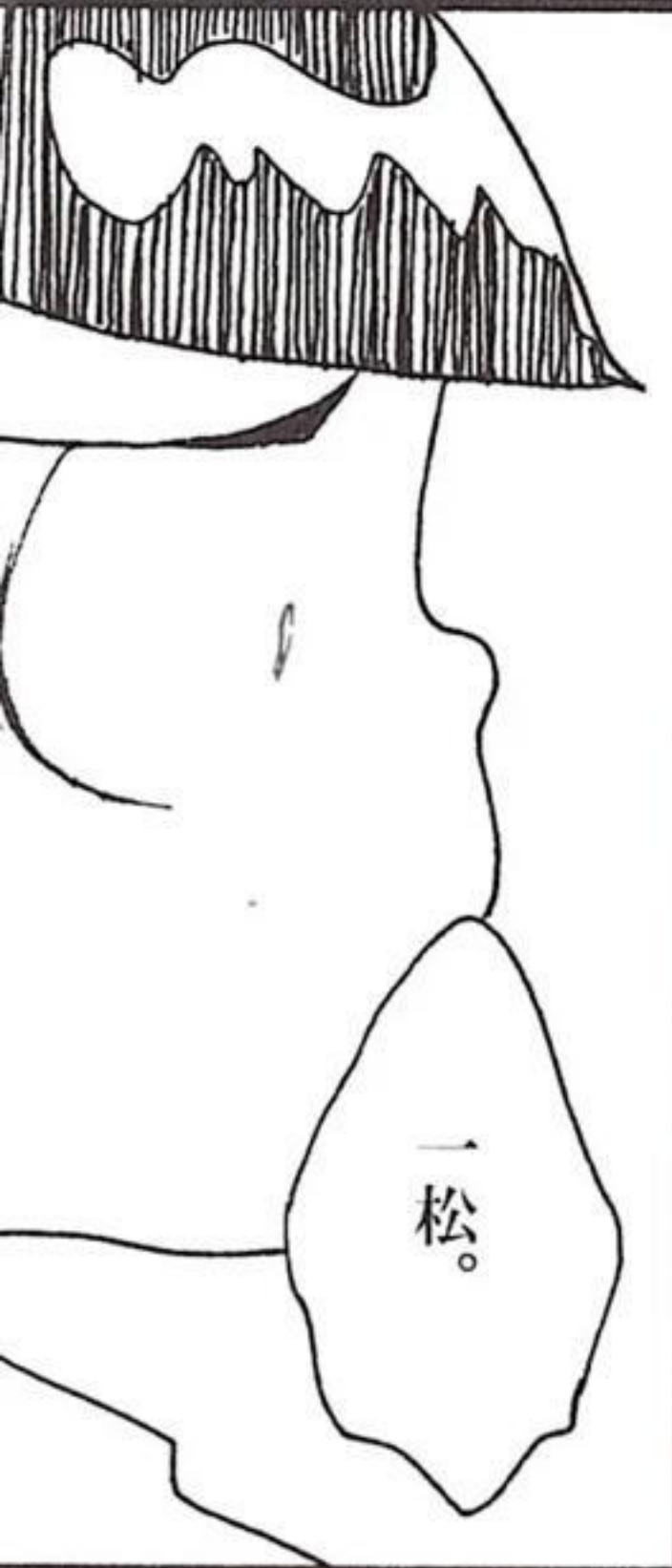
えっと

いちまっ、

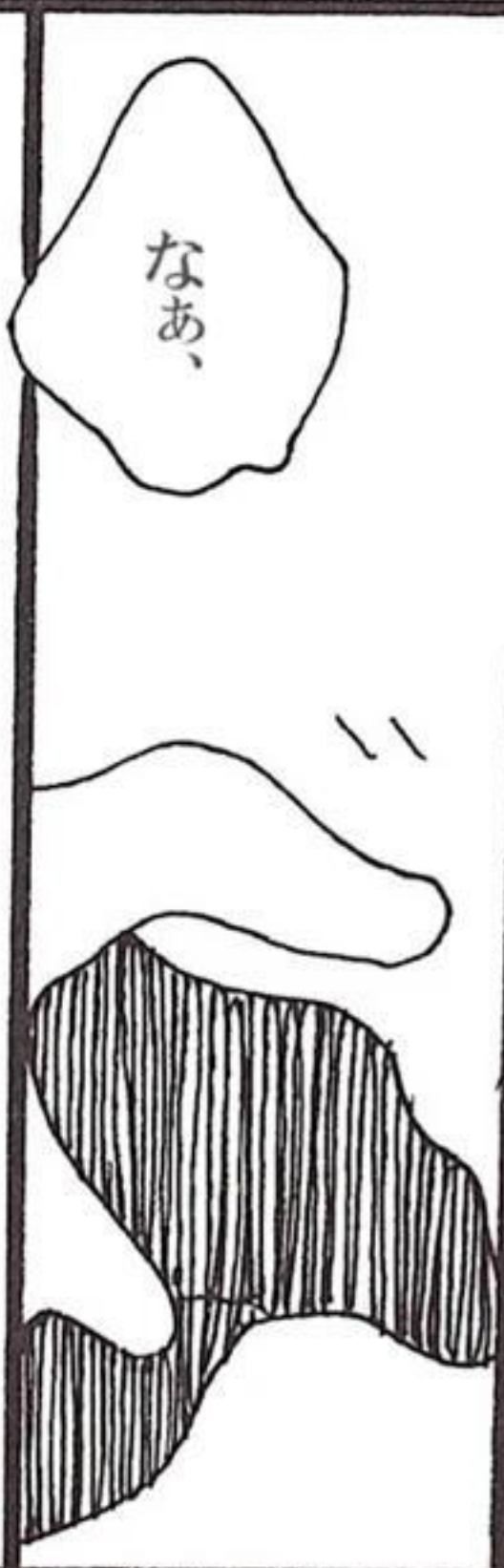
……本気か？



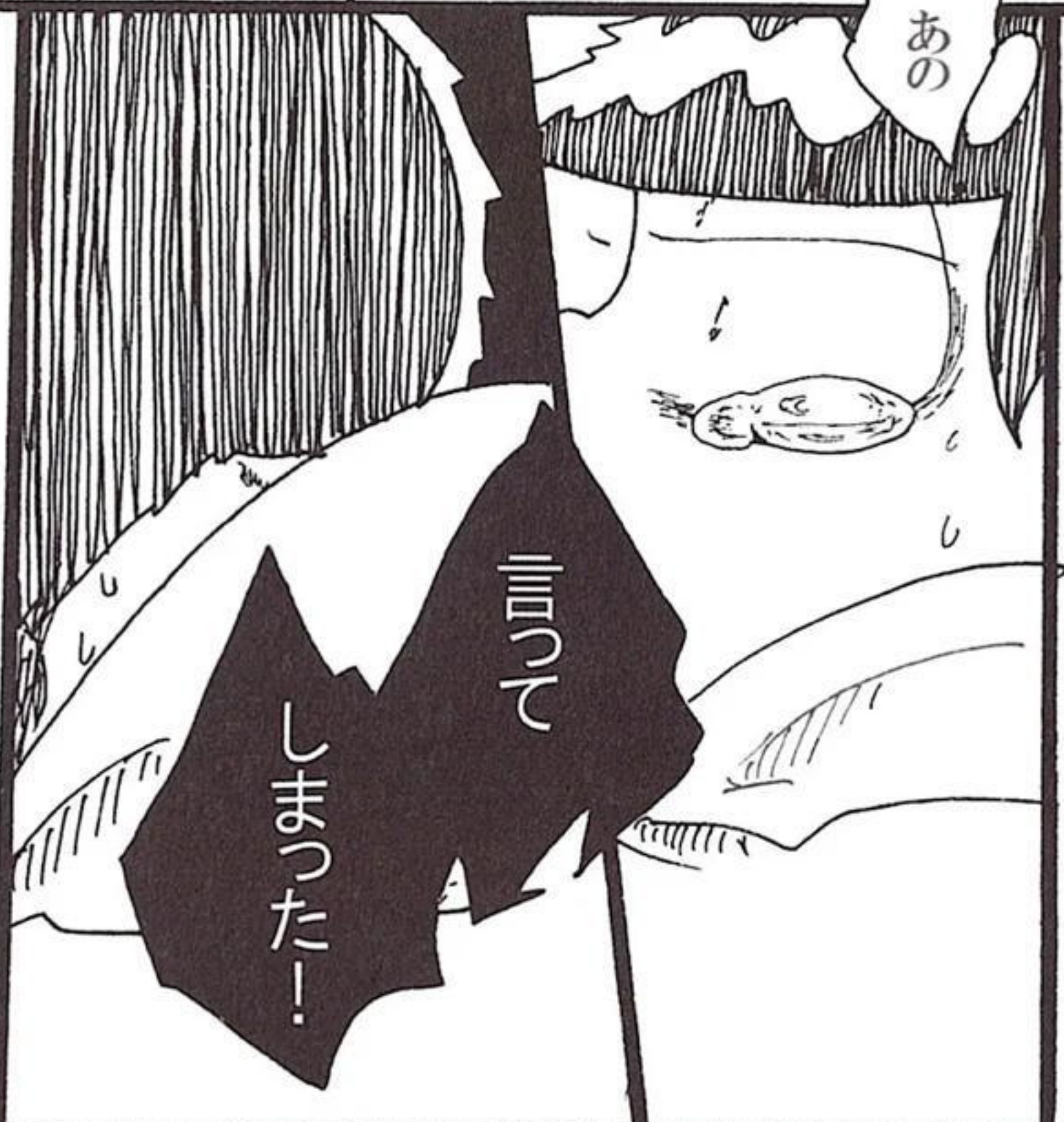
あ



一松。



なあ、



しまった!



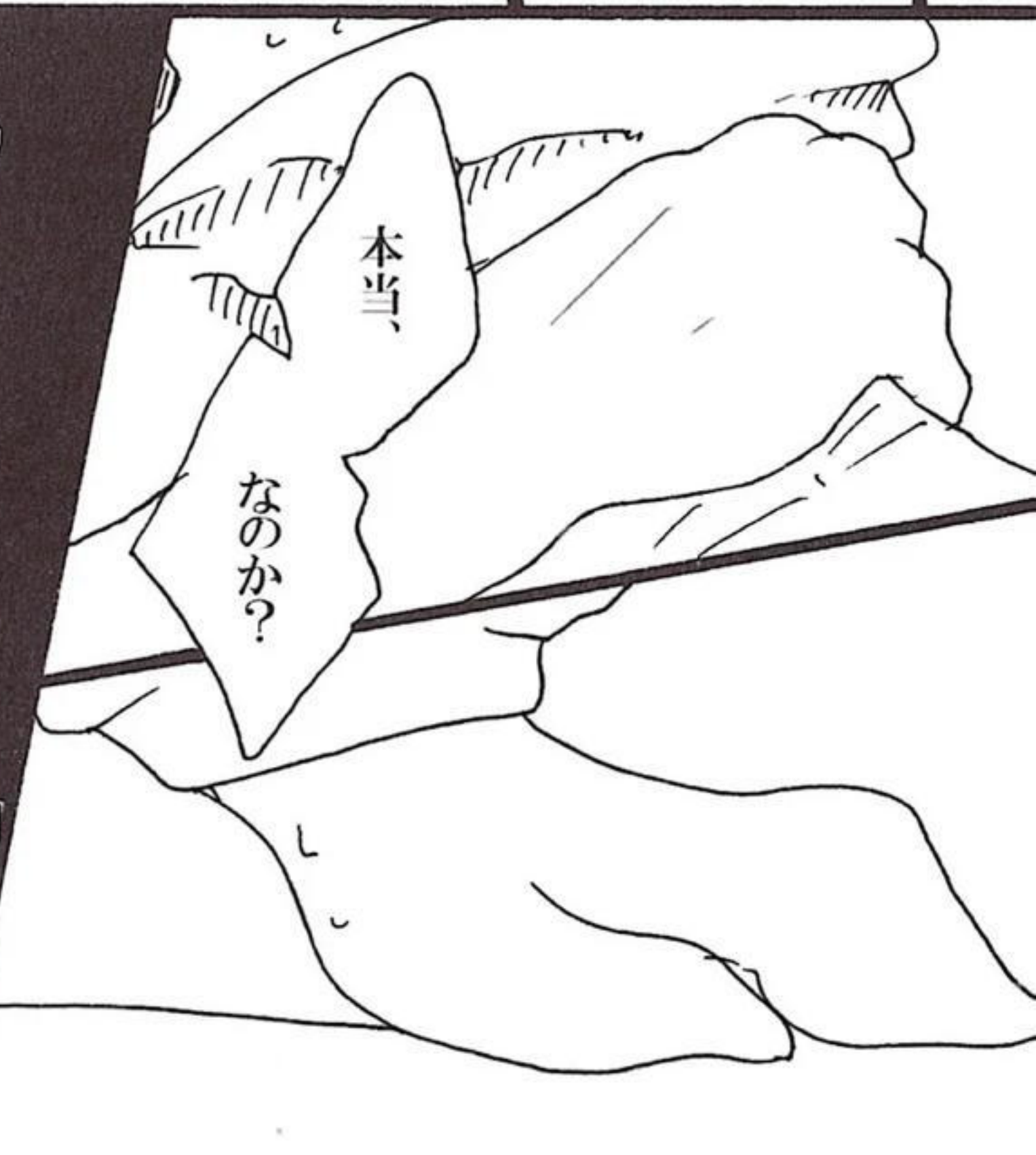
ないのか?

じゃあ

聞き違い

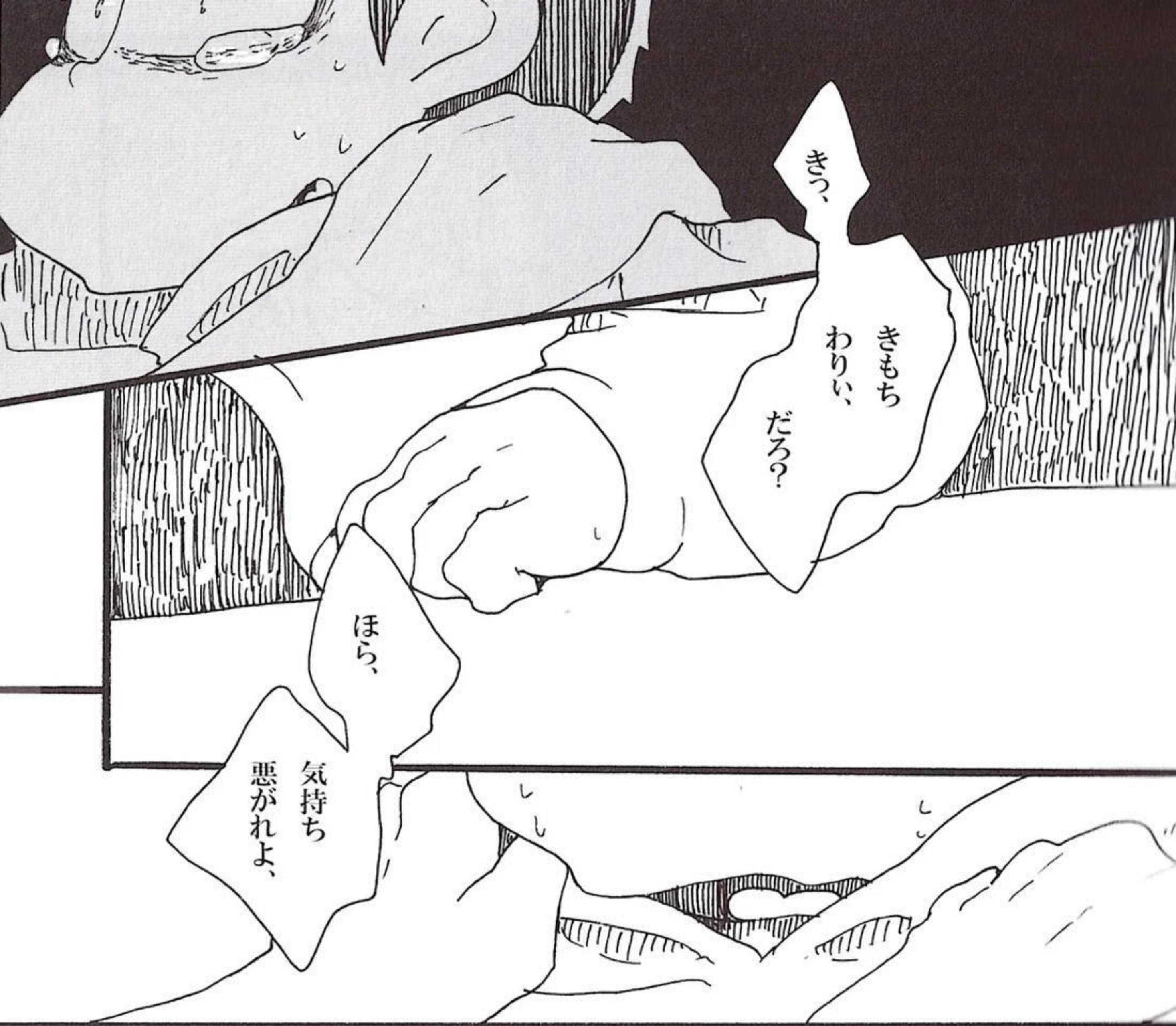
オレの

なあ



本当、

なのか?



きつ、

きもち
わり、

だろ？

ほら、

気持ち
悪がれよ、

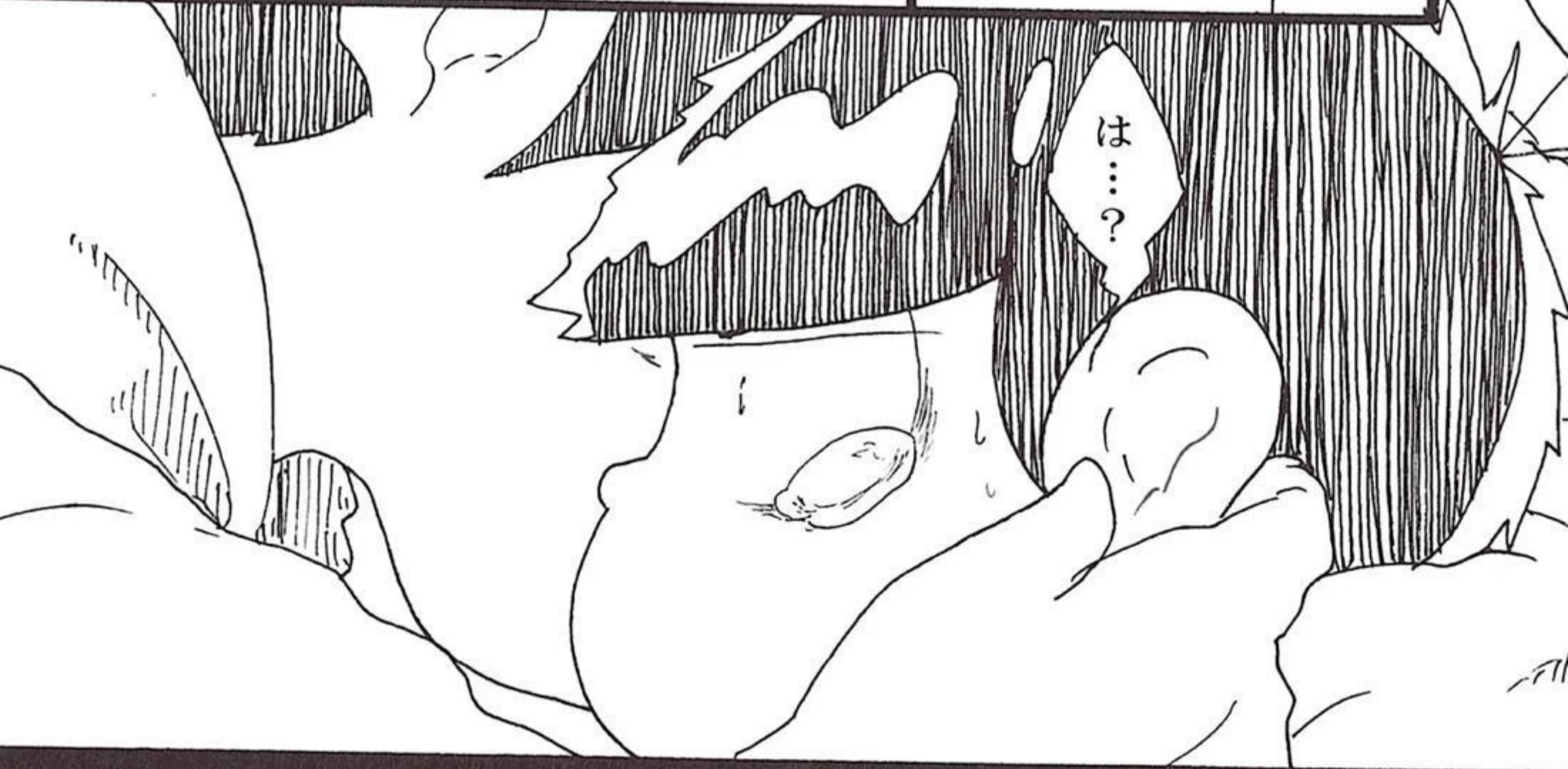
気持ち悪い
つて言えよ。





そうしたら、

オレの方が
よっぽど
気持ち悪い。



は…？

愛している。





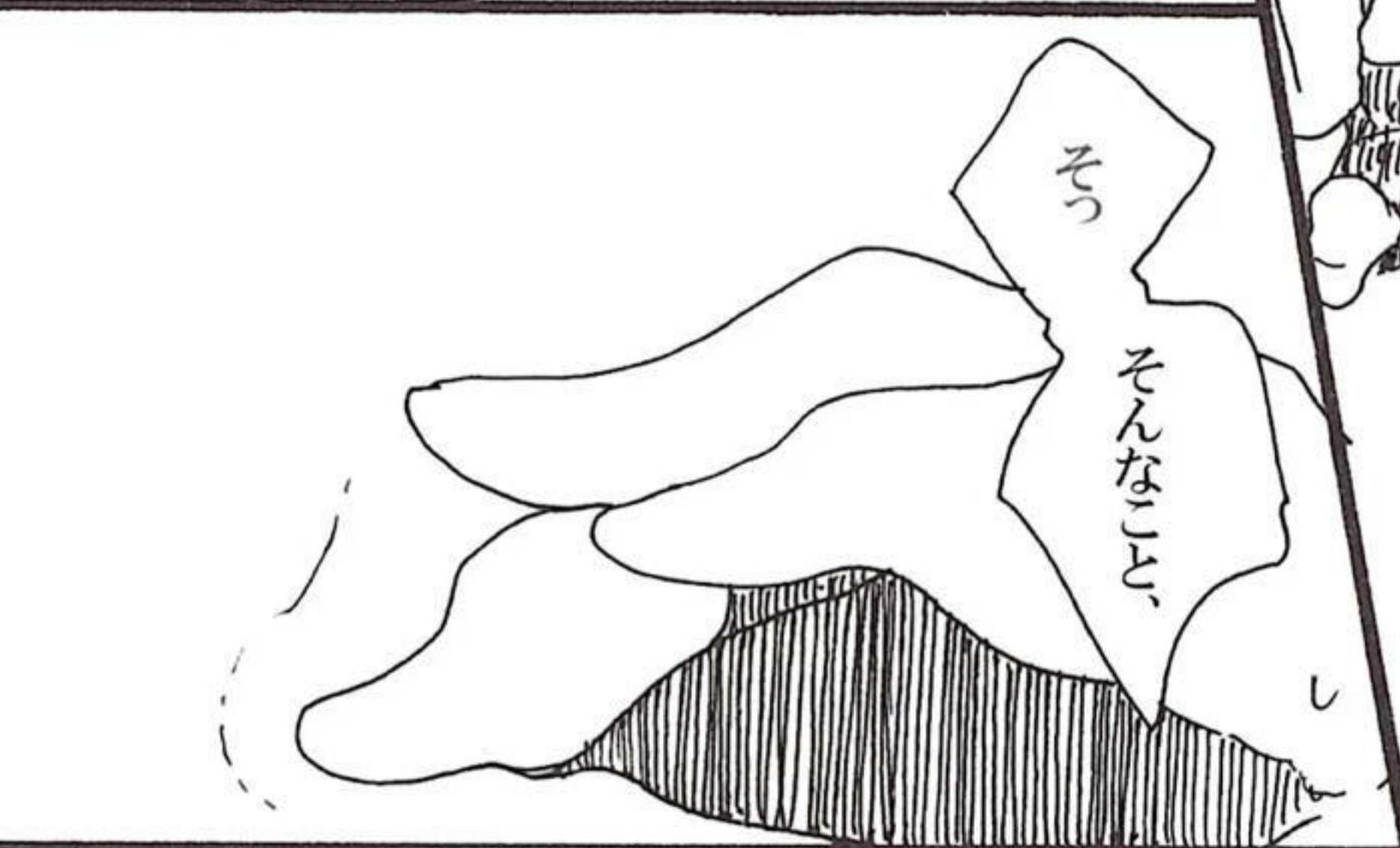
う、

うそ、

愛しているんだ。



嘘じゃあない。



そう

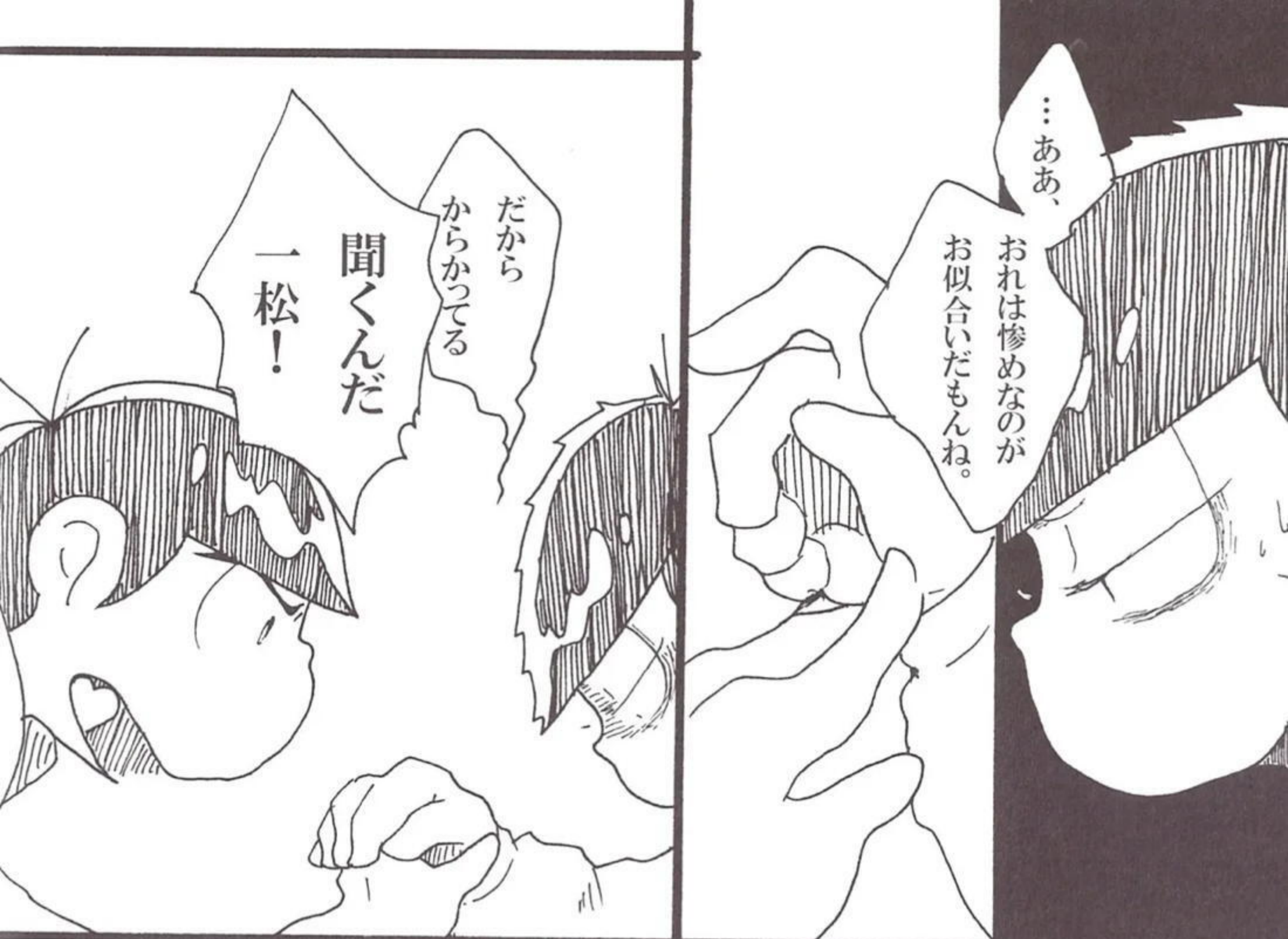
そんなこと、



同情なら
やめて。

みじめ。

あるわけ、
ないじゃん。

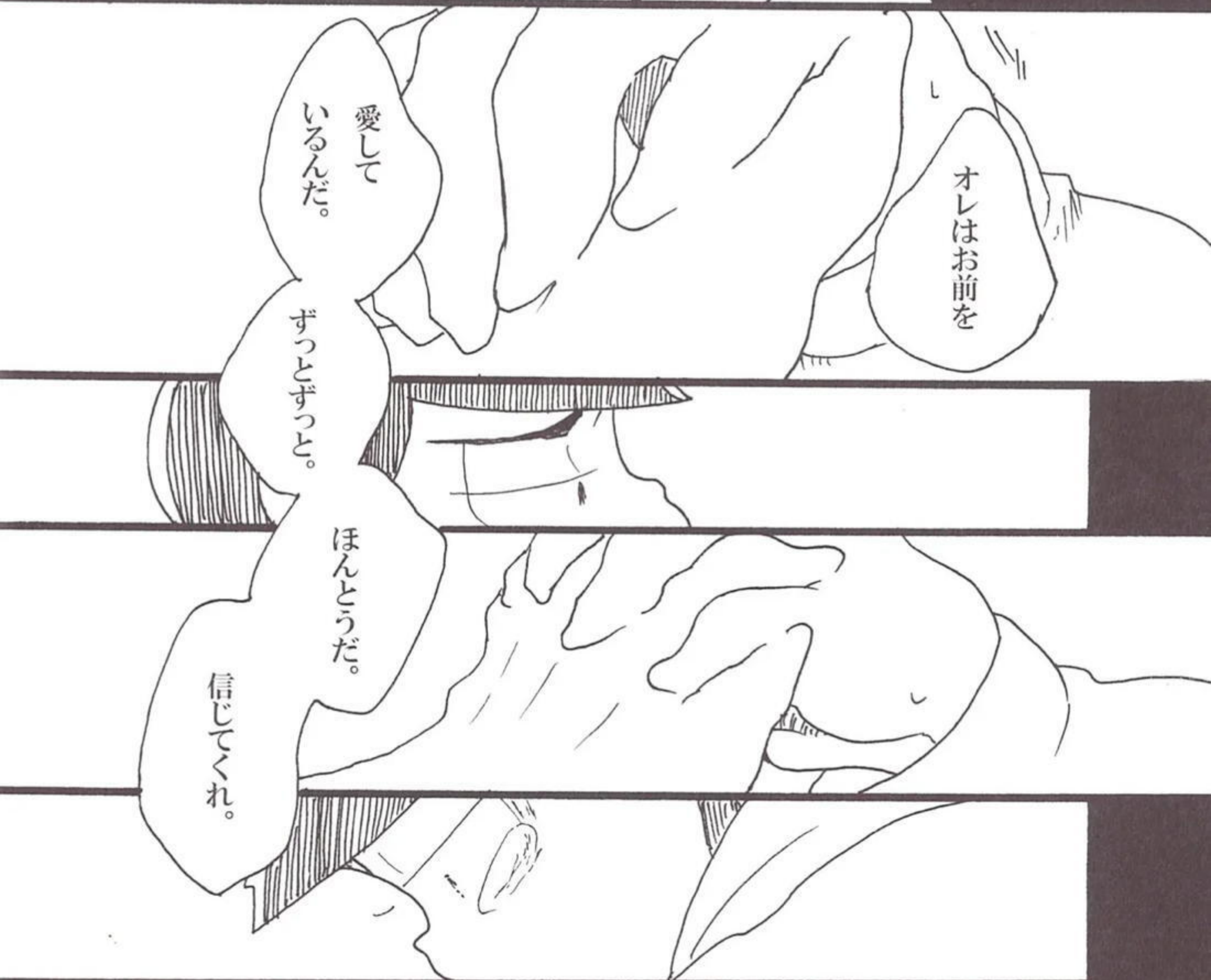


だから
からかっている

聞くんだ

一松!

ああ、
おれは惨めなの
がお似合いだもんね。



愛して
いるんだ。

オレはお前を

ずっとずっと。

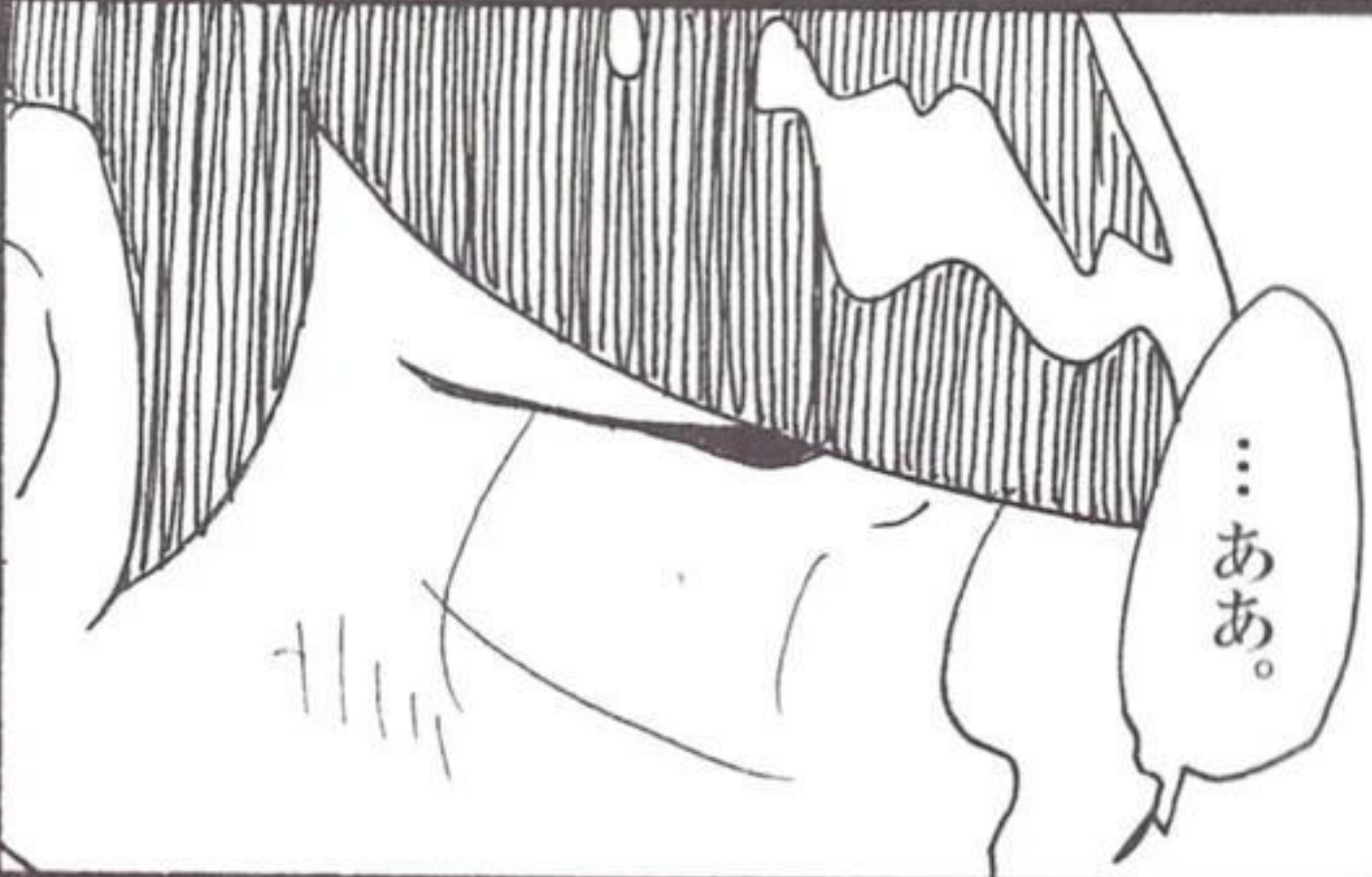
ほんとうだ。

信じてくれ。

きゅ



ほんとうに？



ああ。

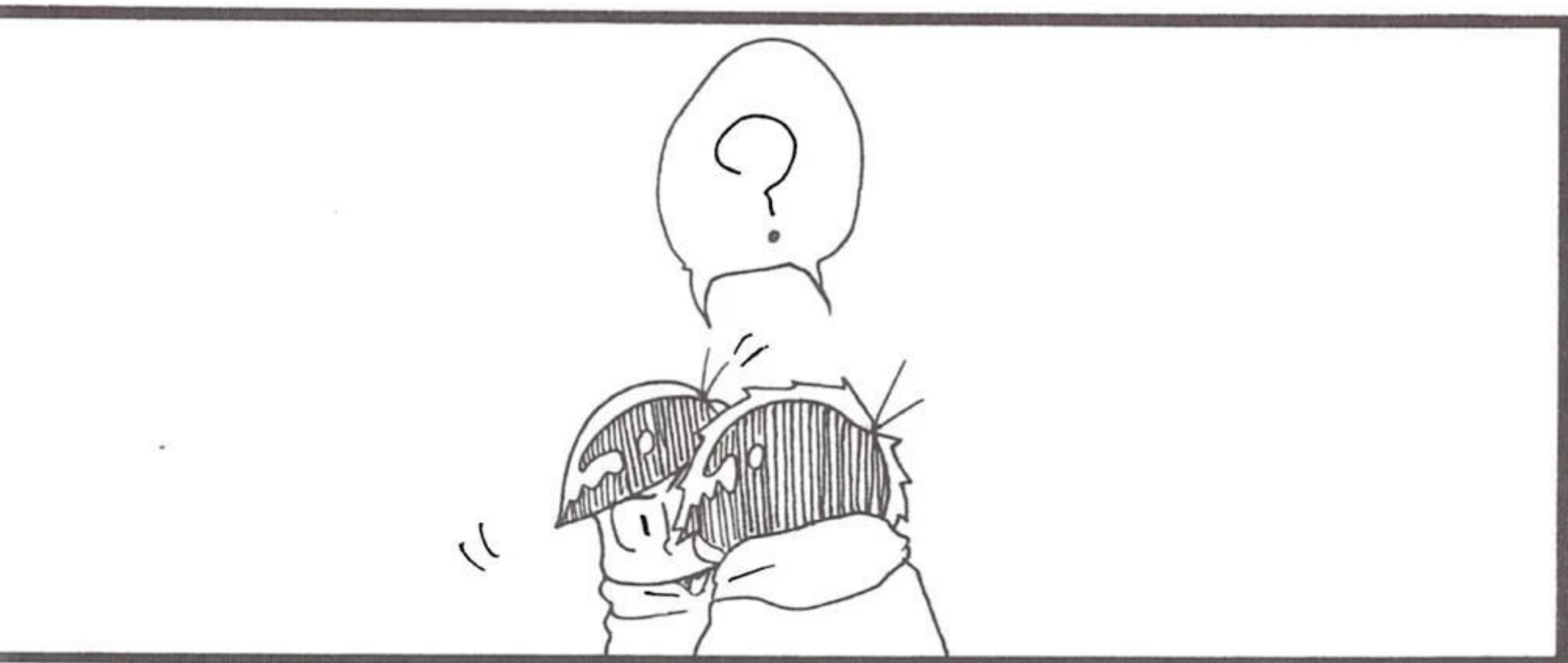
ほんとうに、
カラ松も
僕の事が
好きなの？



？
カラ松「も」
どうなの？



他にも誰か
いるのか？





そうしたら
お前、
「クソ松」が
おれ、
つまり
「二松」を
あ
いしてる、
……と
言った。



…
ちがうの？
違うな。



じゃ、
じゃあさ
両想い
……
……



言ったな！
間違つて
ねえよな？
間違つて
いないぞ！

(以下甲とする)
を
甲か乙を
丙誰だよ。
甲乙丙か？
あー、なんて
言えбайいんだ、
お前、
いや、だつて
え
なんで。

甲は乙を
好きといて、
甲乙丙丁
巳庚辛壬
乙は丙を
愛していると
言ったわけだろう？

似たような
もんじゃねえか。

違うだろう。

甲は乙を
丙と言ひ、

乙は丙を丁と
言つたわけ
だろう？

甲乙丙丁

ややこしい。

ものわがりの

悪い。

ああん？

いや、
だから！

オレもお前も
お互い好意を
抱いてはいるが
種類が
違いますねって！

あ？
…いや

え？

まさかど
思うけど

なに、

もしかして、

お前のその

愛してるだの
言うのは、

兄弟愛に
とどまつた話、
なの？

だど
したら、
おれ
めちやくちや
恥ずかしく
ない？

ふふふ。
とどまつた
ないぞ。

？！
だつたら！

ほくも、
そう、
なんだけど。

それは
知ってる。



なら両想いじゃ
ねーかよ!



うーん。

ブラザーには
まだ少し
難しい話なのか。



同い年だろ
バカにすんな。



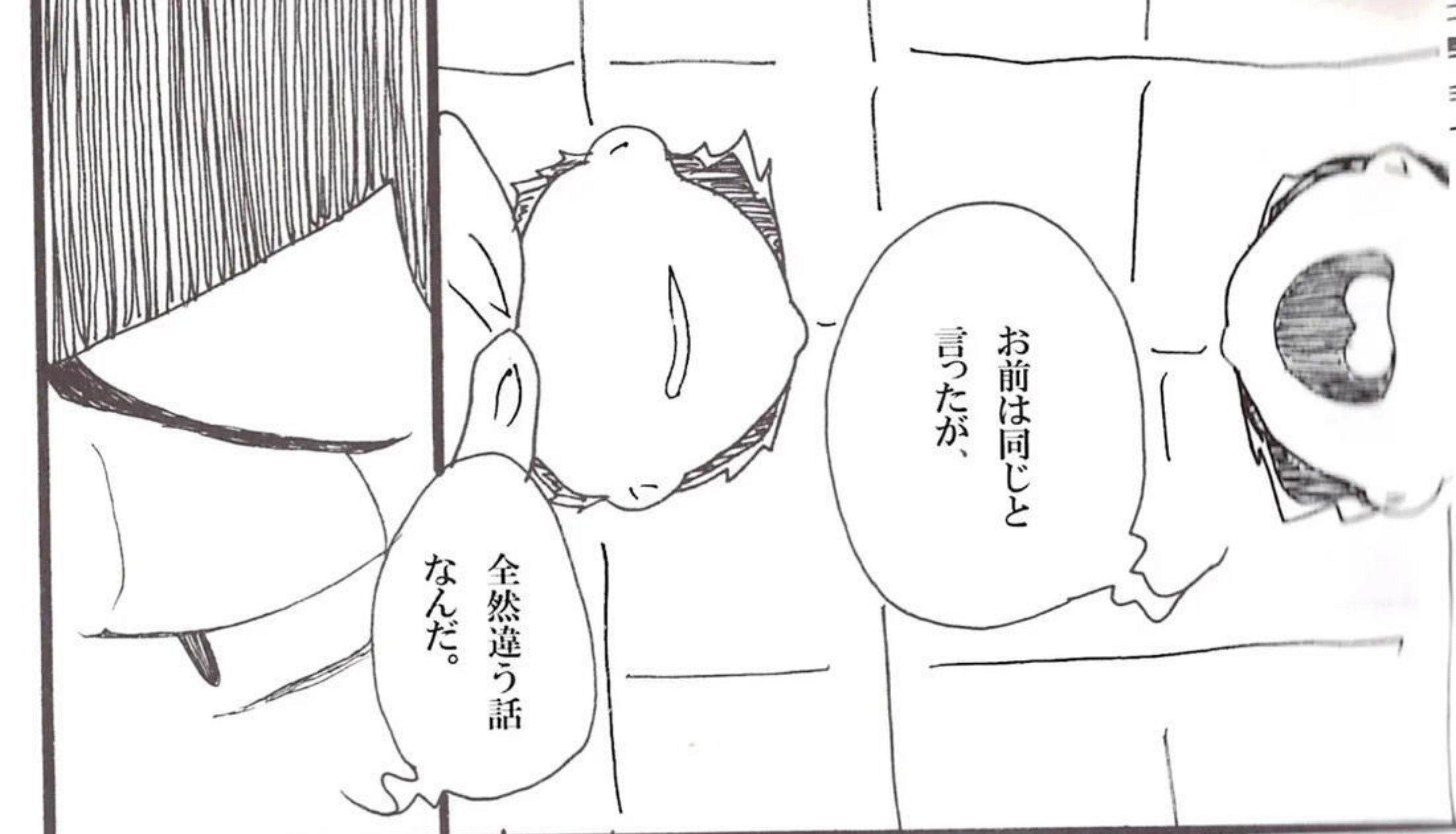
なあ一松。




お前の
「甲」にあたる
「それ」は恋だ。


オレとは違う。



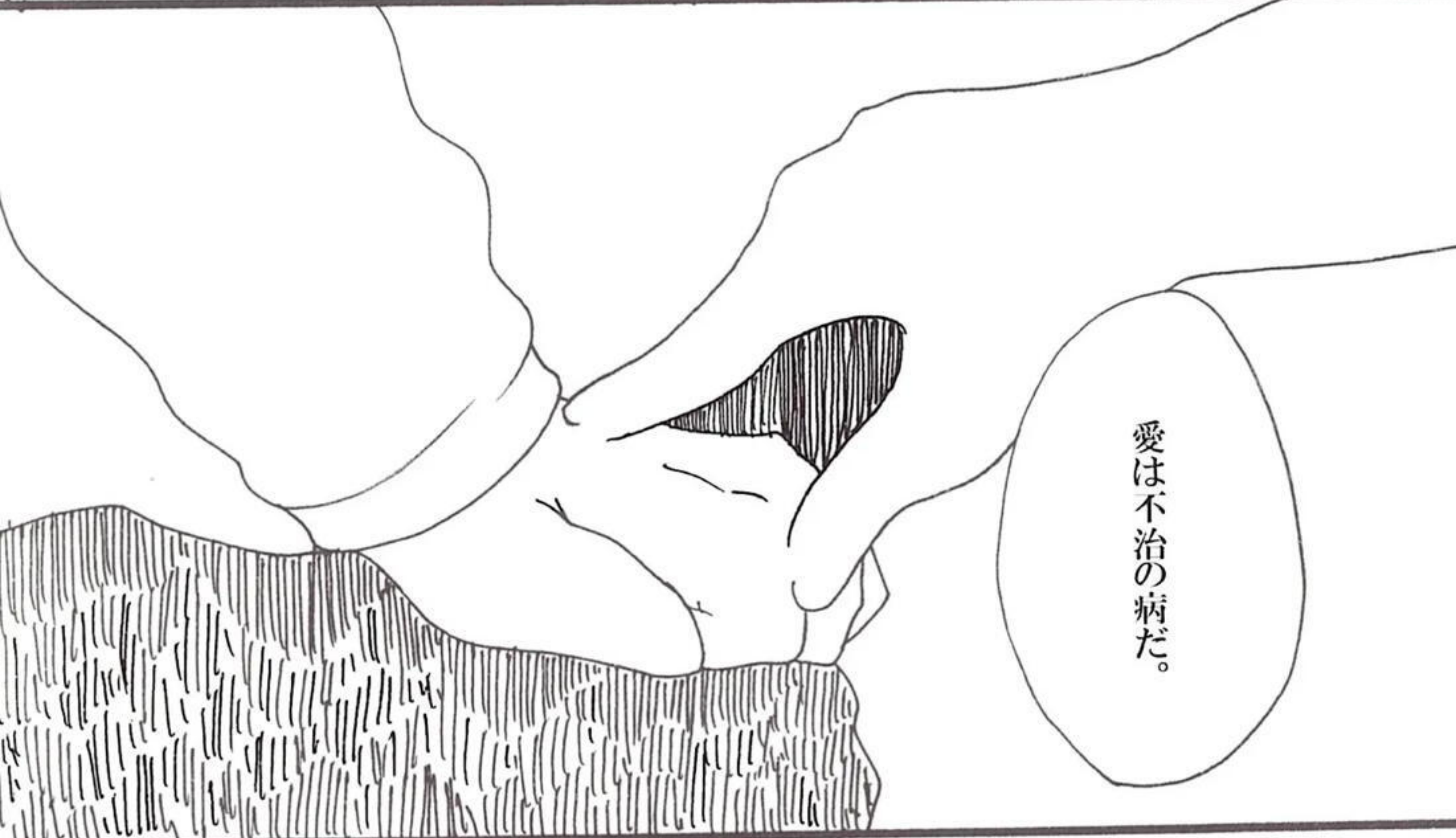





俺が考えるにな、
恋は流行り病の
ようなものだ。



いずれは
治ってしまう。



愛は不治の病だ。




少なくとも
オレのお前への
気持ちは

身を侵し、

どうにも
ならないほどに
腐りきっているぞ。

だから
違うんだ。



恋の病は
いつか治る。

お前のそれは

恋に恋して
いるというか、


こっ、
キラキラ
している。

お前のものとは
似つかない。

オレのはもっと
どろっとドロドロ




わかんねえ。




もっと
わかりやすく
言えよ。

なに、

おれとお前が
お互い好きで、



今は
好きの度合いが
違うって
はなしだろ？



だったら
おれかお前が
どっちかに
合わせる
っていうか、

追いつけば
いいんでしょ？

そういう
はなしだろ？



ちがうな。

え、なに、
わかんない。

なんなの、

話すら
通じ合わないの。

話と意思が
通じ合った
聞くんが一松。
として、

ならば
どうだつて
言うんだ？

え、
付き合う、
とか。

もしも。

仮にだ。

オレとお前が
おなじ熱量の
愛だの恋を
持っていたと
したら

お前は
どうしたいんだ？

えと、
デート
したり、

手、

つないだり、

ちゅーとか、

その先とか
したい

つて

思ってたん、

だけど。

なるほど。

そういう欲が
オレにも全く
ない訳ではない。

お前が
むせび泣くほど
愛を囁いてみたいし、


舌がもつれるほど
口付けてもみたいし、
溶けあうほど
どろどろに
抱き合ってみたい。

しかしオレは
オレの欲でしか
助けない。

オレには
自分本位でしか
ものを成せない。

お前の事も
どうにかして
しまっだらうな。





まだこの気持ちを
腐らせずにせめても
かろやかな愛の時点で
お互いの思いに
気づいていれば、

「異端な
オレの気持ち」
に惹かれて
いるだけで

本質的に
愛しているわけでは
決していないんだ。

オレ達はきつと
幸せになれた。

でも今は
もう無理だ。

お互いの
温度が、

見え方が

あまりにも
違いすぎる。

オレも

お前も

ふたりでは

幸せに

なれない。

お前に与えて

やるべきものを、

お前が望むものを

オレでは

与えてやれない。



…なら、

どうしたら

いいの。

おれが
お前に隠してたのが
知れちゃつて、

形が違うけど
お前もおれを
好きだつて
知つちゃつて、

どうしたら
いいの。



諦めなまきや
いけないの!?

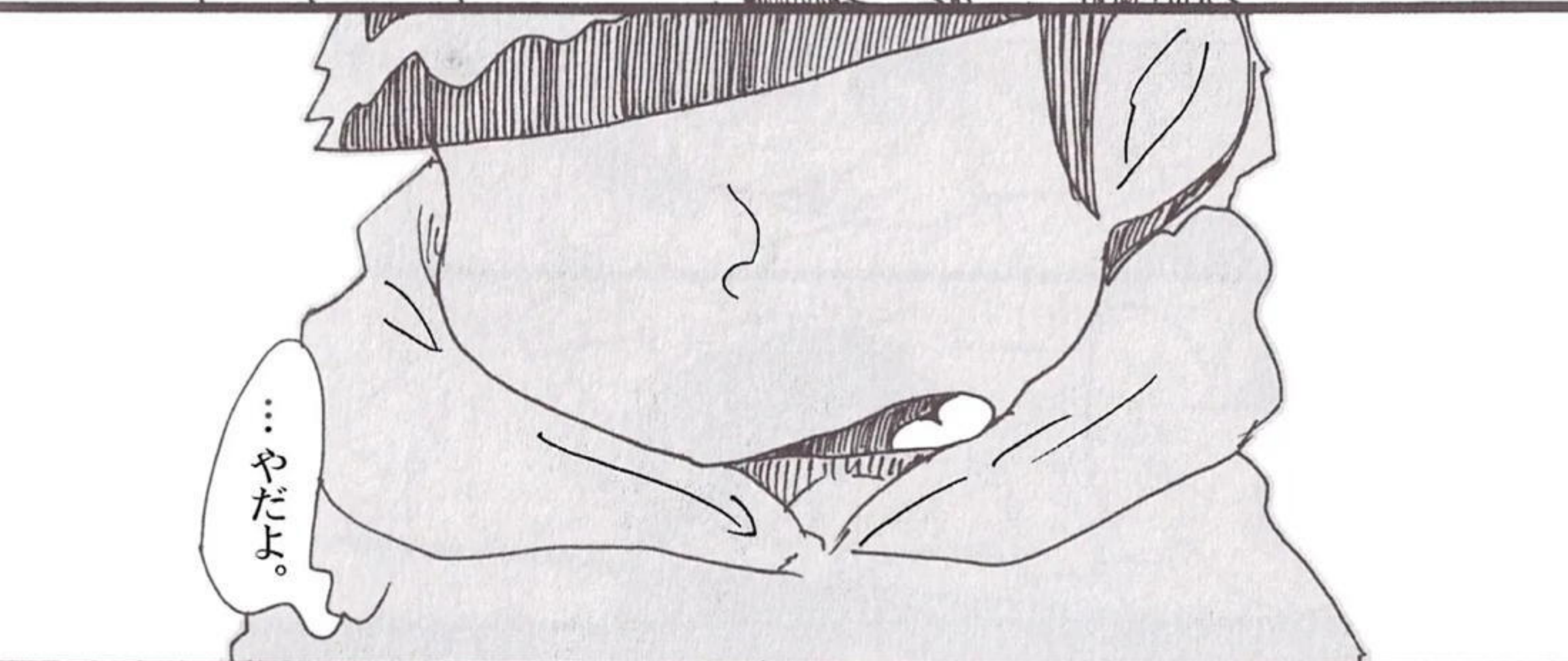


そうだ。



振られた
とでも、

思えばいいの?!



…やだよ。



おれの人生の

半分以上

あんたが

好きだったんだ。

おれの半分、

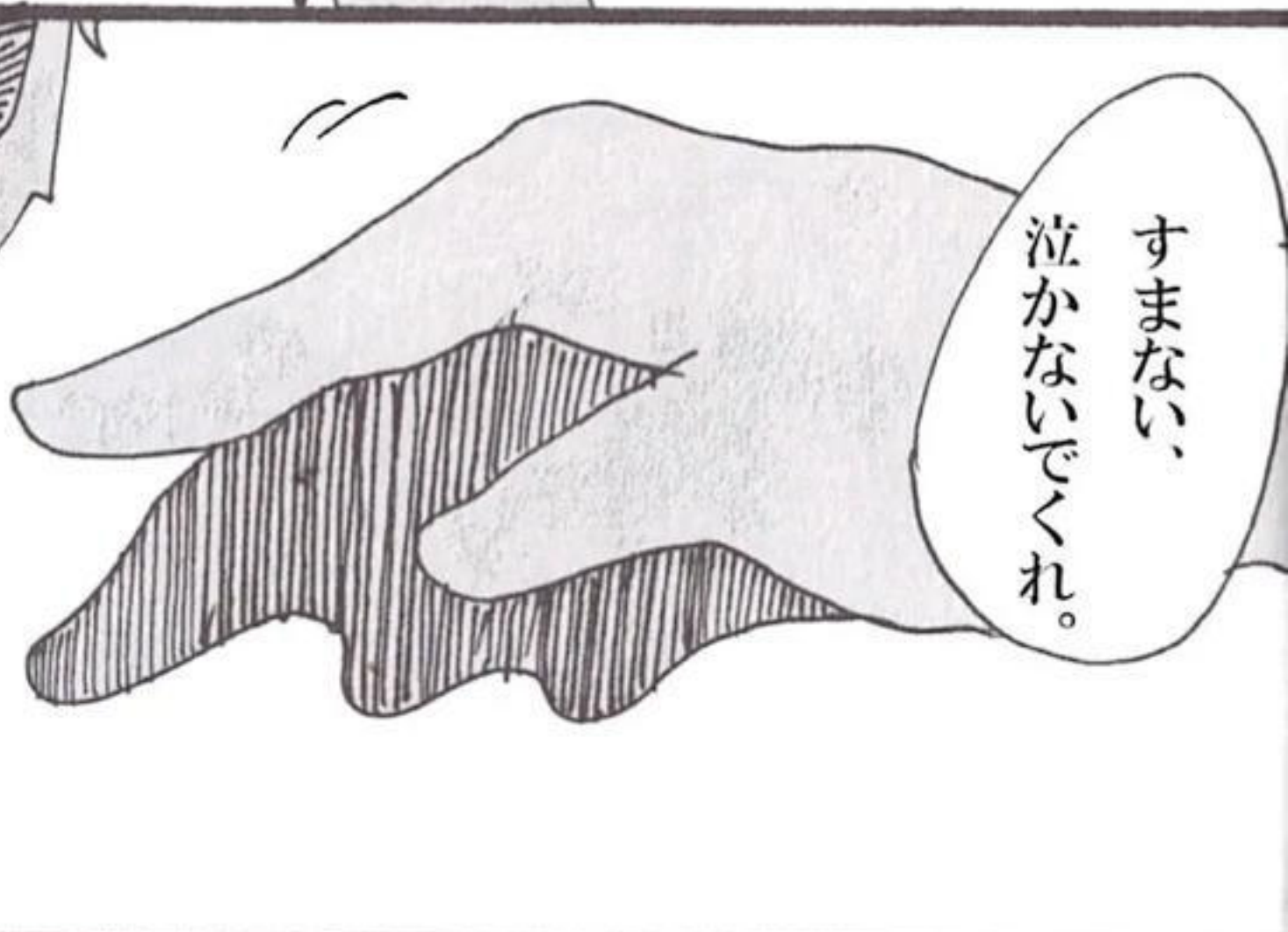
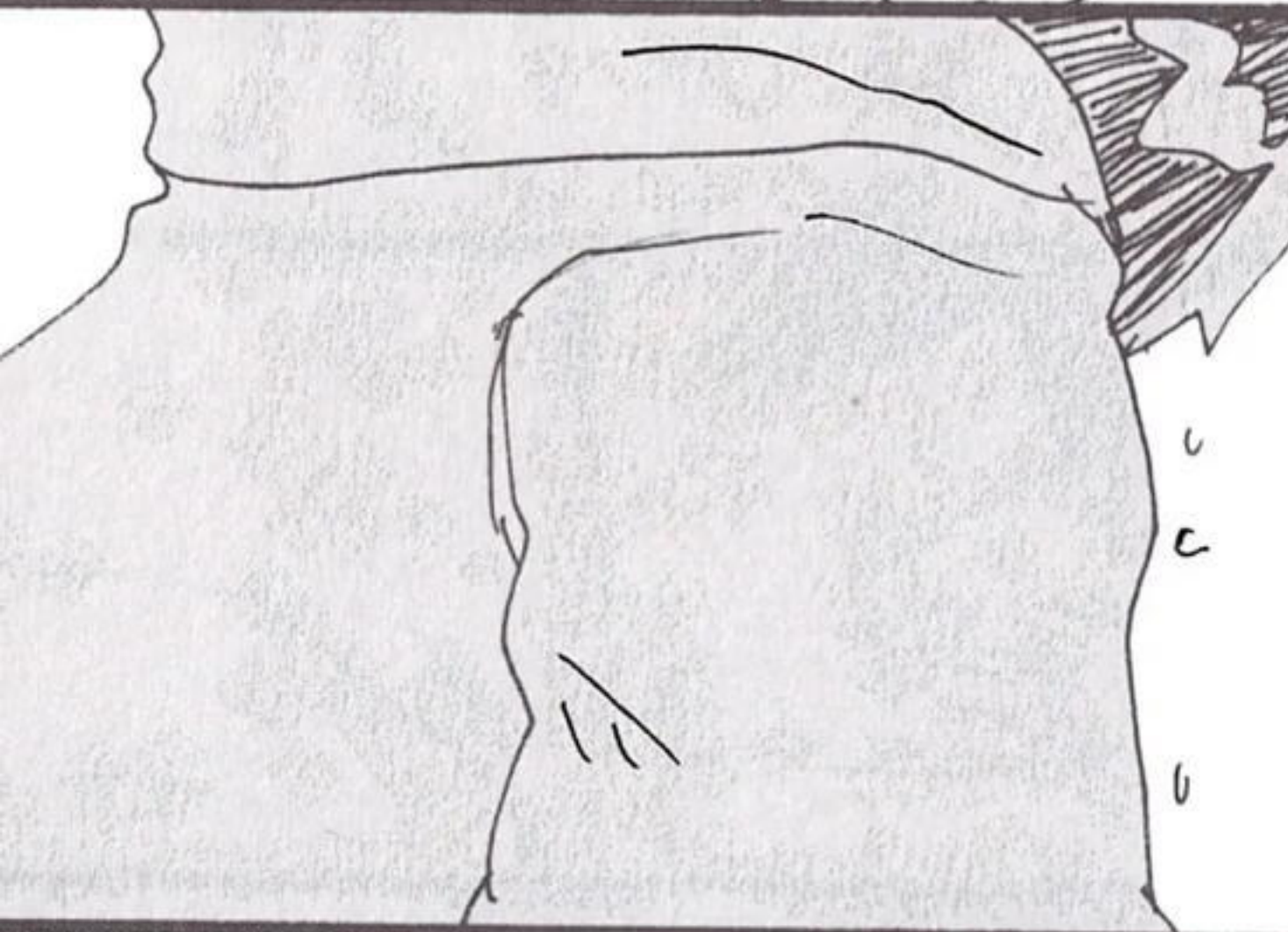
捨てろっていうの。

ああ。



あんた本当に

クソだよな。



すまない、
泣かないでくれ。



それは、
できない。



同情して
くれよ！

なら！
優しく
しろよ！



だったら寄って
くるんじゃ
ねーよ、
慰めてくれるんじゃ
ねーかと思っちゃう。

…嬉しくない。



お前と
同じ気持ちを
いだける
ようになるの。

…どうしたら、
おれは
どうしたら

お前には
むりな話だ。

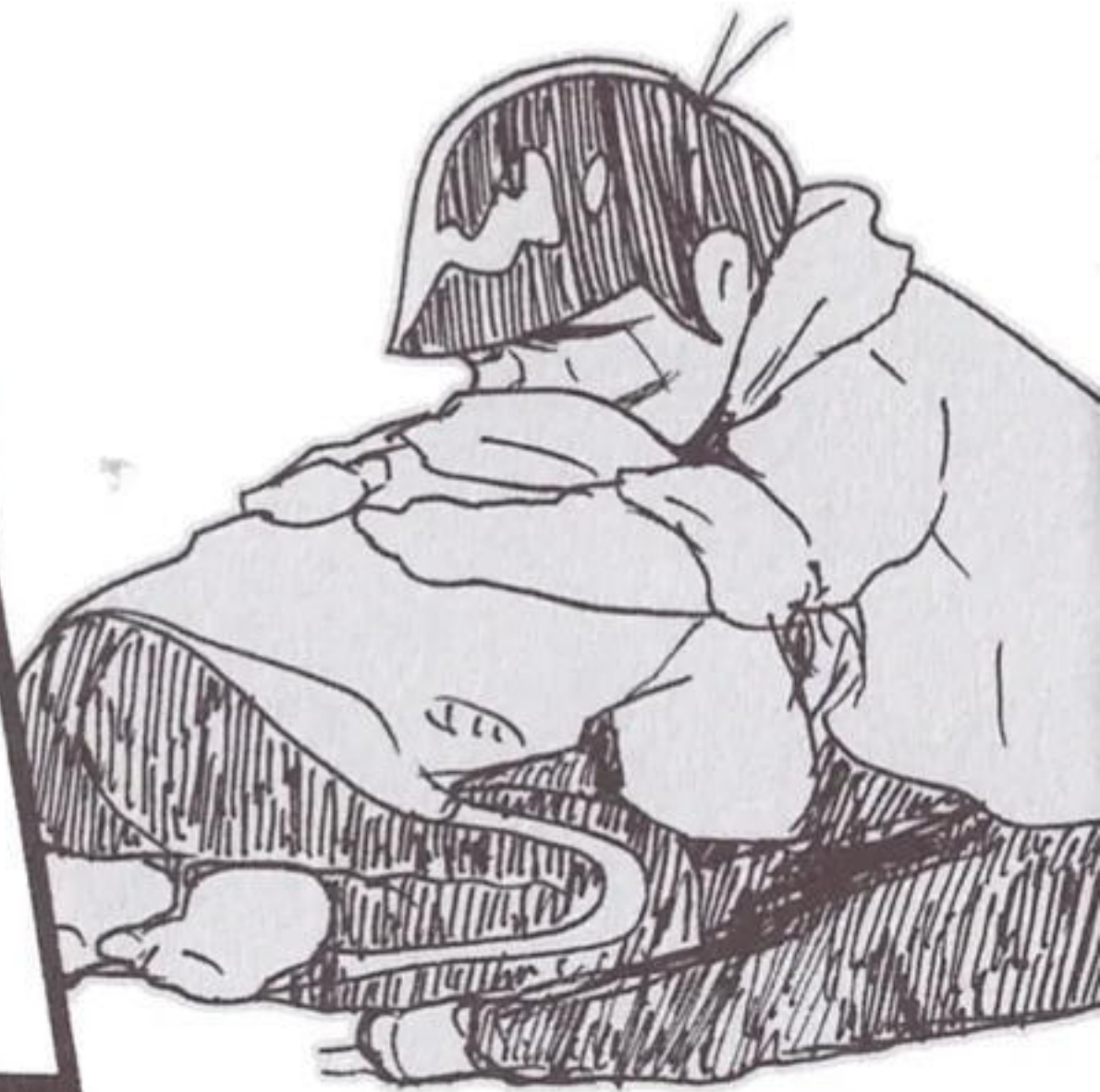
いや、
無理であつて
欲しいんだ。

オレ達は
同じ生き物だが

そこは同じに
なつてほしくはない。

…やつて
みなぎや
わかんない
じゃん。

わかるさ。





きらきらした、
愛になりたての

恋の時点で
気づきたかったなあ。

してみた
かったなあ。

一松と
ふつうに恋を、



…そう
考えられる
時点で、

新しく、
おれを
すきに
なつてよ。

…なら、
今の気持ちを
捨てて、



オレとお前は
同じ幸せには
至れないんだ。

かなしいな。

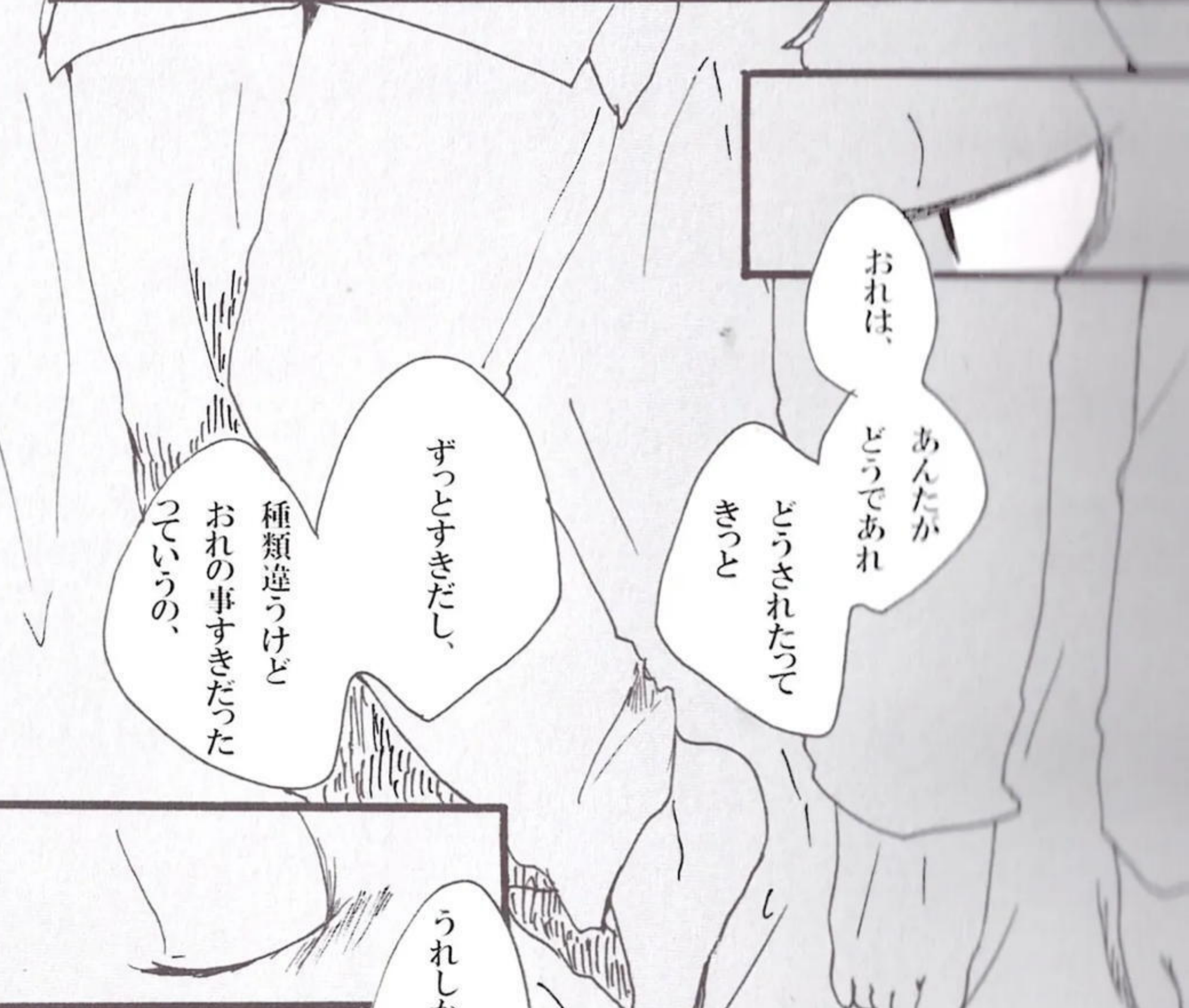
…おいクソ松。

寝てる？



寝たまま。

いちまつ、



おれは、

あんたが

どうであれ

どうされたって

きつと

ずっとすきだし、

種類違うけど

おれの事すきだった

つていうの、

うれしかったんだ。

どんな形だって

おれを特別に
すきでいてくれる

あんたが
欲しかったんだ。

おれの
あんたへの執着と

あんたのそれと

どう違うんだか
やっぱりわかんない
んだけど

でも、

あんたの
腐りきってる
それに浸かって


おれも一緒に
腐っちゃっても

いいんじゃない
ないかなって

思ったんだ。







それは
おんなじきもち
だったよね？

はじめましてとこんにちわ。

7冊目のからいち本ですラッキーセブン！

松にハマってから日々カラ松くんのことかわからず怯えています

今日もカラ松くんのことよく分からず泣いています。

相変わらずめんどくさいというか、なんなんだよ何をしたいんだよお前らっていう話でした。

カラ松くんから先に一松くんへ兄弟以上の愛が向くことってあんまり妄想しないのですが、

でももしカラ松くんが一松くんがカラ松くんを意識し出す前に恋してしまったら

「禁断の恋、それもギルトガイなオレに与えられし宿命」とか思ってた

自己消化出来てれば何の問題もないんですが、

まだあの痛いキャラに完全になりきれてない時点でこれが発生してしまったら、

人並みには隠すのかなというのと、どうにもちょっと常人と発想が

違うみたいなんで、変に感情をため込んでその爆発を抑え込みすぎたら

厄介なことになるんじゃないかなって、あれそれでした。

同じルートで同じ行先じゃないと仲違いしてしまうだろうから無理ってカラ松くんと、

おおよそ同じ終着点で所持アイテムも大体おなじなら一緒に行こうよって一松くんみたいな。

説明がむづかしい。

6人でひとつではあっても、個体として生きはじめてしまったんだから

思想もモノの見方も同じにはなれないのだろうなあってはなしでした。

おめめ真ん丸にしてる一松くんたくさん描けて楽しかったです。

ここまでお読みいただきありがとうございます。

次もラブでピースフルなカラーが描きたいです。

抱えれば沈む

2016年9月18日

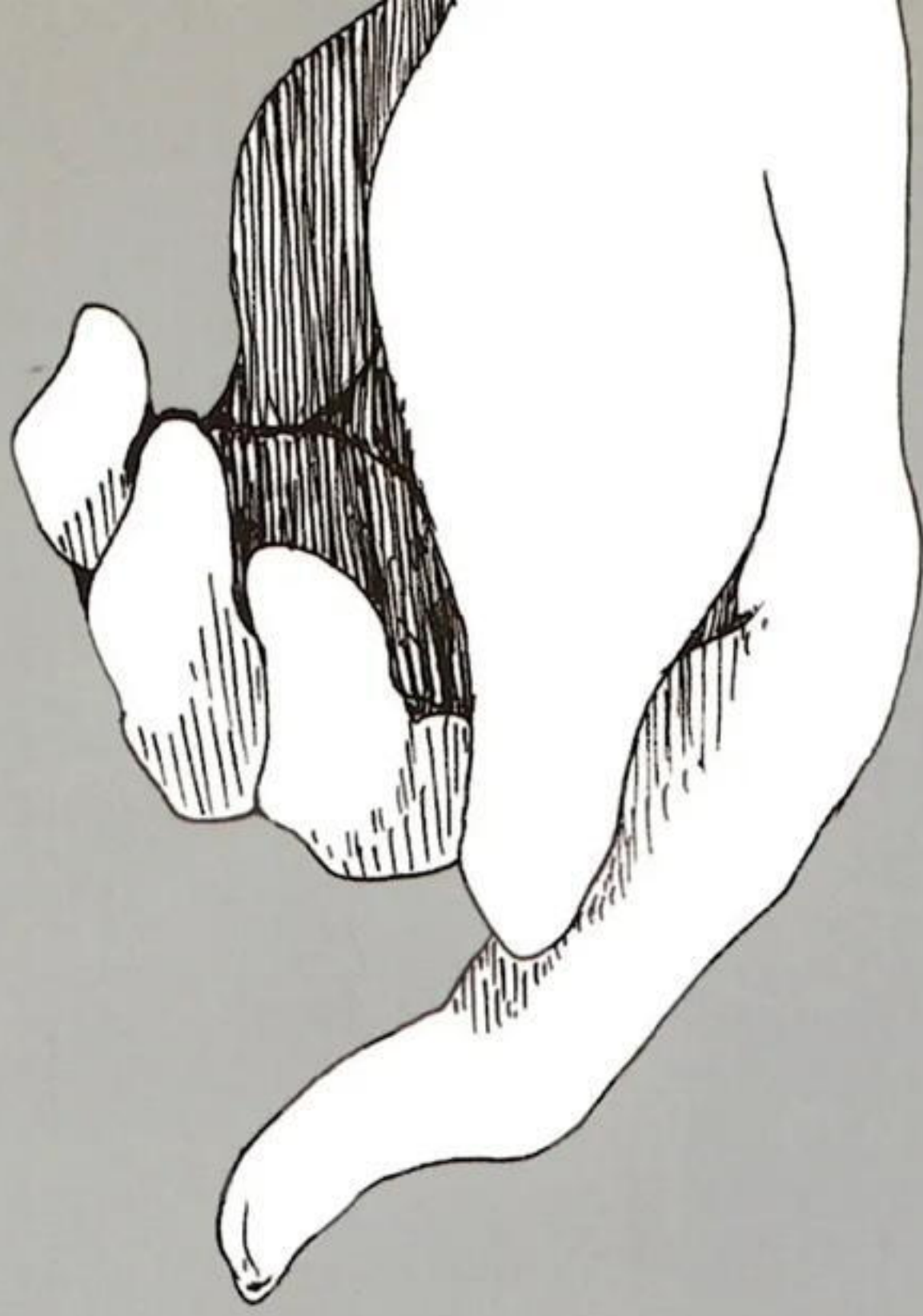
印刷：株式会社 栄光

発行：特売ジャッカー / 厘希

Mail : sweetrider12345@gmail.com

PixivID : 631731

無断転載・複製・ネットオークションへの出品を禁じます。



]

二〇一六年九月十八日

特売ゾヤリ丹リ*厘希

